

あじさいの道しるべ～あじさいが開いた道～ 167 豊昭学園交通資料館部

私が迷子になってどれほどの時間が経っただろうか

携帯を取り出し、時刻と現在地を確認しようとするが、相変わらず携帯の画面は、暗かった。朝、家を出る前にちゃんと充電しておけばよかったと後悔する。せめて場所だけでも確認しようと私は、足を進める。

場所が分かる物がないか辺りを見渡す。すると看板のような物が目に止まる。暗くてよく見えないが「羽代橋」と書いてあるようだ。地理に詳しい人であればこれだけの情報だけで現在地が分かるのかもしれないが、あいにく私は、わからない。

その時、橋の下をきらびやかに光る電車が駆け抜ける。瞬時に私は、まだ電車が動いている時間だと理解し私は、あの電車を追いかけるときっと駅にたどり着けると考え無我夢中に走り駅に着いた。私は、車内でなんとも不思議な出来事だったと物思いにふける。私は、また「羽代橋」を訪れた。

ふと線路のほうに視線をむけると色とりどりのあじさいが広がる幻想的な景色だった。